

紙ふうせん

KAMIFUSEN No.87

成田市立図書館だより 第87号

編集 成田市立図書館

〒286-0017 千葉県成田市赤坂1-1-3

<https://www.library.city.narita.lg.jp>

2019年（平成31年）3月31日発行

☎ 0476-27-4646（自動応答）

0476-27-2000（直通）

FAX 0476-27-4641

大人のためのおはなし会



2018（平成30）年12月13日（木曜日）、本館にて「大人のためのおはなし会」を開催しました。

当日は、51名の方にご参加いただき、おはなしの世界を楽しみました。



わらべうたで身体をほぐしましょう。



おはなし「森の家」を語る。



おはなし会で語った本、読んだ絵本の紹介。

（紙面紹介）

- ・文学講座『ビブリア古書堂の事件手帖・三上延 自作と蔵書を語る』
講師：三上 延（みかみ えん）氏（作家）
- ・市史講座『明治を生きた旧幕臣とキリスト教―飯田栄次郎とその周辺―』
講師：樋口 雄彦（ひぐち たけひこ）氏（国立歴史民俗博物館教授）
- ・公津の杜のクリスマスおはなしかい

平成30年度 図書館文学講座 2018.9.29(土)
**「ビブリア古書堂の事件手帖・
 三上延 自作と蔵書を語る」**
 三上 延 氏 (作家)

三上 延さんの主な著作

『ビブリア古書堂の事件手帖』シリーズ
 (メディアワークス文庫/KADOKAWA 2011年～)
 『江ノ島西浦写真館』
 (光文社 2015年)
 『ダーク・バイオレッツ』シリーズ
 (電撃文庫/KADOKAWA 2002～2004年)
 『シャドウテイカー』シリーズ
 (電撃文庫/KADOKAWA 2004～2005年)

2018(平成30)年度の文学講座は、三上延さんをお迎えしました。「ビブリア古書堂の事件手帖・三上延 自作と蔵書を語る」と題し、ご自身の著作について、また著作に登場する古書や蔵書についてお話しいただきました。

『ビブリア古書堂の事件手帖』と古書

2018(平成30)年11月1日(木)より公開された映画の原作である著書『ビブリア古書堂の事件手帖』シリーズのお話からはじまり、作品中で登場した古書や、古書から読み取れる小説家についてのエピソードなどが語られました。『ビブリア古書堂の事件手帖』シリーズは、すべて実在する古書を扱っていることが特徴です。実際のできごとや古書の内容などは変更できないため、古書に関する記述は制約が多く、実物を見て調べるのが重要になってくるそうです。本の装丁や奥付、掲載されている広告など本文以外の部分から、出版された当時の時代背景や作品の扱われ方、作者の考えを読み取ることができます。インターネットで調べてすぐにわかることもありますが、現物を見ないと判明しないことが多いそうです。また、インターネット上の情報は上書きされたり、発信者が不明であったりする場合があります。その点、紙の本はその時代ごとに実物が残っており、古いものや事柄を調べる際には強みがあるとのことでした。

『雪の断章』の調査

古書の実物を探して調べていることの実例として、佐々木丸美著『雪の断章』が紹介されました。ある本についての情報の中でも、その本が何回重版されて、それぞれ何年にその版が出たか、という記録は、出版社にもなかなか残っていないそうです。『ビブリア古書堂の事件手帖』シリーズ最新刊に登場する『雪の断章』は単行本で何度も重版された本です。その中にあとがきがない版があるらしいという情報をインターネットで見つけた三上さんは、古書店などで刷数の異なるものを何冊も買い集めましたが発見することができず、実在するのかもわからないとのことでした。講演後、当館が所蔵している『雪の断章』があとがきのない17刷であるとわかり、三上さんも大変驚かれていました。



会場前方のスクリーンに古書や写真を映し出しながら講演をしていただきました。

江戸川乱歩と蔵書

江戸川乱歩著『怪人二十面相』については、挿絵によるイメージが連載当時から変わらずに定着していることや、その一方で、戦前・戦後の社会情勢に合わせて本文の内容が変化していることなどをお話しいただきました。また、三上さんが江戸川乱歩邸を訪れ、見学した内容や、乱歩自身の著作の蔵書について語っていただきました。

その他、『ブラックジャック』と手塚治虫、『晩年』と太宰治など、さまざまな作家と書籍にまつわるお話を聞かせていただきました。古書の実物や、三上さんが撮影された写真を示していただきながらの熱意のこもった講演となりました。

市史講座 2018.12.15(土)

『明治を生きた旧幕臣とキリスト教 —飯田栄次郎とその周辺—』

講師 樋口 雄彦 氏 (国立歴史民俗博物館教授)



明治150年の節目となる今回の市史講座は、幕末から明治期にかけての成田市内の旧幕臣の歴史を題材とし、国立歴史民俗博物館の樋口雄彦教授を講師にお迎えしました。樋口先生は、1961（昭和36）年静岡県に生まれ、静岡大学で日本史学を専攻し、卒業後、沼津市明治資料館の学芸員、国立歴史民俗博物館助教授として勤務されるかたわら大阪大学において文学博士を修められました。2011（平成23）年からは国立歴史民俗博物館・総合研究大学院大学教授、日本近代史のオーソリティーとして現在ご活躍中です。また、明治維新史学会、洋学史学会、全国歴史資料保存利用機関連絡協会、静岡県近代史研究会など多くの学会に参画されています。

今回は、旧幕臣であり現市内の下福田地区に県内初のキリスト教会「福田聖公会」を設立した飯田栄次郎に焦点をあて、「明治を生きた旧幕臣とキリスト教—飯田栄次郎とその周辺—」という題で講演していただきました。幕府のキリシタン禁制から一転し、明治維新後の旧幕臣にはキリシタンになった者が少なくなく、飯田栄次郎についてもその一人でした。「敗者」となり、明治を生きた旧幕臣たちと近代日本のキリスト教との関わりについて説明していただきました。



下福田での栄次郎の伝道活動については、一度は挫折して帰京しましたが、再び下福田にいる求道者のため、この地に戻り聖公会を設立する経緯などの話がありました。また栄次郎はどういう生き方をしてきたか、詳しい出自を数々の文献を参考に紹介していただきました。

幕臣の子として江戸に生まれた栄次郎は、幕末に幕府の兵学校で仏式兵学を学び、維新後は陸軍に入りましたが、まもなく陸軍を去り下福田の飯田家を継ぎました。その後西南戦争に従軍しようと志願し再び上京しましたが、すでに洗礼を受けていた兄山縣與根二に説得されクリスチャンになりました。また、栄次郎と與根二に影響を与えた旧幕臣でクリスチャンである島田弟丸の人物紹介や、弟丸と栄次郎との関係、その弟丸とつながる旧幕臣のクリスチャンのことなど、維新後の旧幕臣達の生き方について、丁寧で貴重な講義をいただきました。

参加者からの質問や意見もあり、有意義で充実した講演でした。

なお、地元の方も多く参加され、飯田栄次郎にゆかりの方もお見えになっていたようです。

公津の杜のクリスマスおはなしかい

2018.12.21(金)



2018（平成30）年度の「公津の杜のクリスマスおはなしかい」は、もりんぴあこづ3階の工芸スタジオを会場に開催しました。絵本やおはなしを楽しんだ後に、オーナメント作りに挑戦するというおはなし会です。当日は、14名の小学生が参加してくれました。

おはなしのベルが3回鳴ると、おはなしが始まります。演目は、絵本『まよなかのゆきだるま』と、おはなし「だめといわれてひっこむな」「子うさぎましろのおはなし」でした。どれもサンタクロースやゆきだるまなどが登場する、この季節にぴったりのおはなしです。

参加した子どもたちはクリスマスの雰囲気を感じながら、真剣におはなしに聞き入っていました。



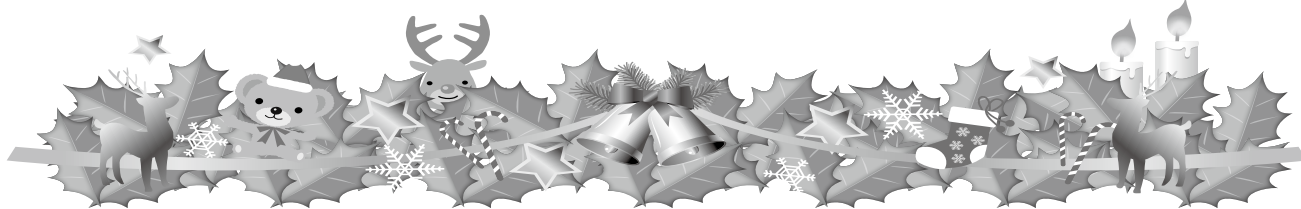
おはなし会の様子



自分だけのクリスマスツリーの完成！

おはなしのあとは、工作の時間です。今回作ったのは、松ぼっくりをクリスマスツリーに見立てたオーナメントです。緑と白に色をつけた松ぼっくりに、カラフルなペンやシールで思い思いにデコレーションしました。早く完成して2個目、3個目に取りかかる子もあり、色とりどりのクリスマスツリーがたくさんできあがりました。

クリスマス前のワクワクする時間をみんなで過ごした、とても楽しいひとときでした。



編集後記

表紙に登場した「大人のためのおはなし会」では、冬にぴったりのおはなしやわらべうたで、参加者には楽しいひとときをお過ごしいただけたのではないのでしょうか。図書館で開催されるイベントはホームページ等でお知らせしています。皆様のご参加をお待ちしております。

成田市立図書館だより	No.87
発行	成田市
編集	成田市立図書館
〒286-0017 千葉県成田市赤坂1-1-3	
	☎ 0476(27)2000
発行日	2019.3.31
登録番号	成教図 18-059



リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。